

しんとう 神道山からのお知らせ(平成二十二年一月～六月)

＊黒住教本部の主な行事＊

- 一月一日(木)午前〇時 歳旦祭
- 新年最初の御神前行事です。
- 午前六時五十分 日拝式(初日の出)
- 一月十一日(日)午前十時 道つれ新春開運祈願祭
- 全国よりお道つれが初詣にお参りされます。
- 一月十九日(月)教主様伊勢神宮内宮ご参拝(午前八時三十分内宮宇治橋集合)
- 毎年恒例の教主様伊勢神宮初詣です。
- お道つれの方々もこの日に併せて伊勢参宮を計画されます。
- 三月十日(金)午前十時三十分 春季祖霊祭
- 四月四日(土)午後二時三十分 教祖大祭
- 黒住教三天祭の一つです。
- 四月十日(金)神道山コイの山のぼり奉流(五月十六日まで)
- 各家庭で役目を終えた鯉のぼりが、神道山で雄大に泳ぎます。毎年約二五〇匹の鯉のぼりが奉流されます。
- 五月四日(月)第三十一回まるごとキッズ・フェスタ(五日まで)
- 小学生を対象とした一泊二日のイベントです。参加ご希望の方は本部までご連絡下さい。
- 五月五日(火)午前十時三十分 第十八回こども健康まつり
- 約一五〇匹の鯉のぼりの下で、楽しいイベントが行われます。「家族で」参加下さい。
- 五月九日(土)午前十時 婦人会総会
- 五月二十三日(土)第十一回まるごとボランティアの日
- 社会福祉施設を中心に全国の教会所が一斉にボランティアを行います。所属の教会所を通じて「」参加下さい。

六月三十日(火)午後二時三十分 大祓大祭
三天祭の一つです。半年の罪けがれを祓う神事です。

＊大元・宗忠神社の主な行事＊

- 一月一日(木)午前〇時 元旦祭
- 一月十一日(月)午前十時 どんど祭
- 新年の松飾り、書き初めや古いお札をお祓いしておはやし(焼納)する神事です。
- 一年間の無病息災を祈って、おはやしの炉の火をつきたてのお餅を焼いておぜんざいと一緒にいただきます。
- 二月三日(火)午後三時三十分 節分祭
- 教祖宗忠様が詠まれた「鬼追わず福を求めず我はただ 追われし鬼を福に導く」とのみ教えのままに、婦人会の皆様による手作りの「福豆餅」約五万個が特設ステージより「鬼は内、福は外。福は内、鬼は内」のかけ声で参拝者にまかれま
- 四月四日(土)午後五時 春季大祭
- 四月五日(日)復活第五十八回宗忠神社「御神幸」 午前八時宗忠神社出発
- 大元 宗忠神社「鎮座の翌年から始まり、昭和二十七年より復活してから五十八回という歴史を重ねてきた「御神幸」は、明治の先祖先輩から受け継いでまいりました救世の念願である「天照らす神のみ徳を世の人に 残らず早く知らせたい」という御聖願達成への祈りとして今日、岡山の春を彩る「岡山さくらカーニバル」の中心をなす神事として斎行されています。「御神幸」は、教祖宗忠様の御遺徳を顕彰し、御道の隆昌を念じて「奉仕する尊い行事であり、世界の平和と万民の和楽を祈る大神事であります。

＊神楽岡・宗忠神社の主な行事＊
四月二十六日(日)午後一時 春季例大祭

＊神道山ついたら御日拝のご案内＊

- ＊お日の出の郷 神道山では、毎朝、お日の出の時刻二〇分前より、日拝所で「御日拝」を執り行っています。
- ＊御日拝：毎朝のお日の出を迎える神事です。どなたでもご参拝いただけます。ぜひ一度お参り下さい。
- ＊毎月一日の「ついたら御日拝」には、多くの方がお参りになります。

「ついたら御日拝」の開始時刻は左記の通りです。

- 一月一日：午前六時五十五分
- 二月一日：六時四十五分
- 三月一日：六時三十五分
- 四月一日：五時三十五分
- 五月一日：四時五十五分
- 六月一日：四時三十五分
- 七月一日：四時三十五分
- 八月一日：四時五十五分

貴方のご縁のある教会所は…

＊主要連絡先＊

- 大元・宗忠神社**
〒700-0972 岡山市上中野1丁目3-10
TEL086-241-0148 FAX086-241-7860
- 神楽岡・宗忠神社**
〒606-8314 京都市左京区吉田下大路町63
TEL075-771-2700 FAX075-771-2465
- 北海道地区 札幌教会所**
〒061-2282 札幌市南区藤野二条10-5-1
TEL011-876-8851 FAX011-876-8852
- 関東地区 東京支庁・東京大教会所**
〒154-0001 世田谷区池尻2-21-18
TEL03-3795-4142 FAX03-3795-4209
URL…http://www.kurozumikyo-tk.com

- 中部地区 名古屋教会所**
〒460-0001 名古屋市中区三の丸1-10-33
TEL&FAX052-231-4285
- 関西地区 大阪大教会所**
〒543-0062 大阪市天王寺区逢阪1-3-14
TEL 06-6771-8191 FAX 06-6771-8199
URL…http://www.kurozumikyo-osaka.com
- 天王中教会所**
〒652-0008 神戸市兵庫区上祇園町7-12
TEL 078-361-4806 FAX 078-361-5760
- 九州地区 福岡教会所**
〒811-1344 福岡市南区三宅2-10-14
TEL&FAX 092-511-9623

●まるごとダイヤル●
教主様・副教主様の講話・教団の活動情報が聞けます。
086-284-1111

黒住教ホームページ
教祖神・教えと実践・教団の歴史・活動・書籍など
kurozumikyo.com

黒住教機関誌「日新」
1冊150円/年間12冊1800円
お申込は教会所まで。

黒住教 お日の出を拝み、感謝と感動の心で誠を尽くす ふるさと・イキイキ・だより

発行：黒住教本部 岡山市尾上神道山 TEL：086-284-2121 FAX：086-284-4756 http://www.kurozumikyo.com/



ASEM異なる信仰間の対話会議

副教主様が政府代表として出席

六月三日～五日

去る六月三日から三日間、オランダのアムステルダムで開催された「第四回アジア欧州会合(ASEM)異なる信仰間の対話会議」に、わが国の代表として副教主様が出席されました。

外務省担当官以外で日本から出席者が派遣されたのは初めてで、しかも政府代表という、ま

とに光栄なことであり、大変な重責でした。「貧困の削減」の分科会で提言された、副教主様の発言要旨を紹介いたします。

「貧困」そのものは悪ではないと考える。地球規模の市場原理主義と経済システムの影響により、経済的に恵まれていないことは最悪なことだと思いが、時代だが、決してそうではない。慎ましやかな生活の中で、現代人が見失いがちな愛と慈しみと誠実さをもって幸せに生きていく人々は確かに存在している。このことを踏まえた上で、「貧困」は二種類に分けて論じられるべきだと思う。

生命存続の危機に直面している状態の「極度の貧困」に対しては、個人レベルで解決できる問題ではないので、国連やその他の政府機関や大規模NGO等に一人でも多くの人が協力して善意の行動がなされるよう、働き

かけなければならぬ。何はともあれ解決に向けた行動が最優先されるべき「貧困」である。

二点目は「貧困感」といえる、他者との比較において実感する格差感。あらゆる分野でグローバル化が進み、経済的・物理的な不平等が地球上のいたるところで深刻になっている。「極度の貧困」ほどの極限状態ではないものの、経済的・物理的に恵まれていないことから生じる不幸感や絶望感は、人の心を荒廃させ追い詰めることに多大な影響を与えている。努力が実を結ぶようなチャンスに恵まれている人は少数で、多くの経済的・物理的に貧しい人々は、個人の力ではどうしようもない弱い立場に置かれている。それが民族や宗教などの違いで優劣がつけられるといった不条理極まりないことが原因である場合、紛争に至る場合が多く、いったん血が流されると、その恨みは次の恨みに連鎖するのは必定。一般に「民族紛争」とか「宗教対立」と言われる争いの根本原因は、この「貧困問題」だと考える。

私は人の命は万物の親神の前に平等であると信じている。多



くの宗教者が、人の命が本来平等であることに同意してもらえばと期待している。

この考えに基づくと、宗教者の役割は明らか。すなわち、単に金銭的な支援や物質的な援助だけを頼りせず、いかにして格差感や不平等感を克服させ、心の豊かさや安心を与えることに専心努力するか。かつて来日したマザー・テレサ女史が、「日本人は、物質的には豊かに見えるが、精神的には貧しいのでは…」と発言。「貧困」を物質的な側面からではなく、精神的な側面から語れるのは宗教者。宗派や教団を超えて、「貧困の削減」のために叡智を出し合おう。

今秋には、「第七回ASEMサミット」が北京で開催されましたが、各分野での議論の蓄積が諸課題の解決に向けて役立てられることを願うばかりです。(日新八月号より抜粋)

敬神崇祖の道を歩む

ここ数年、黒住教本部神道山へお問い合わせの多かった悩み事、相談事の中より、大教殿司教が質問にお答えいたします。

【質問】信仰というものは堅苦しいものですか。お祓い(大祓詞)がどうしても覚えられないのですが……。(M.O)

【お答え】信仰をする基本は拝むという、型(かた)から始まり、それを続けるうちに、いのち(すなわち)が入って初めて形(かたち)になるのです。

昔から「お祓いの徳」ということがいわれます。お祓いを上げることによっていただけるご神徳のことです。お祓いを上げることは素晴らしいこと、有り難いことであることと実感できるには、人によって異なりますが、相当年数がかかります。お祓いを上げるが大変だと思えば、おかげにはなりませんし、大変だからとお祓いを上げずにいると、いつまでたっても御道信仰は前に進みません。何か強い願い事がある場合や、非日常的な事がないかぎり、お祓いを上げることは続けにくいかもしれません。私が、私は子供さん方や、嫁い

きたお嫁さん方には、まず生きていく人にするのと同じように御神前、ご先祖様に朝夕ご挨拶をするようにと奨めています。なぜ挨拶をするのかという質問をする人がいますが、世の中で信用の厚い人、仕事が順調にいつている人は皆、挨拶が素晴らしい人たちです。人と人の交わりはまず挨拶から始まります。素晴らしい人間関係を築き、幸せな人生を歩むためにも、きつちりと挨拶をするようにと話しています。

知らず嫌いとは 申しませんが

【質問】私には子供がいませんが、兄にはもう中年になる二人の息子がおり、彼らはそれぞれ勤めをしており、教会所には参拝せず、家庭でも手を合わせている様子はありません。先祖から受け継いできたお道の信仰が、私たちの代で終わつたらと思うと、寂しくなります。わが

同じように、世の中で信用厚く、幸せな人生を送っている人は皆、敬神崇祖の道を行っているので。御神前に、そしてご先祖にご挨拶をする習慣がしっかり身に付いてくると、お祓いを上げてみようかという気持ちにもなつてきます。まずは、「おはようございます。きょう一日お守りください」「素晴らしい一日を有り難うございました」というご挨拶、そし

【質問】私には子供がいませんが、兄にはもう中年になる二人の息子がおり、彼らはそれぞれ勤めをしており、教会所には参拝せず、家庭でも手を合わせている様子はありません。先祖から受け継いできたお道の信仰が、私たちの代で終わつたらと思うと、寂しくなります。わが

子に話すことも難しい時代に、まして黙して話すとなると遠慮がちになります。どうしたらよいのでしょうか。(S.K)

【お答え】先年、ある中年の方が急に亡くなられました。お道にご縁をいただいている叔父に当たる方が、いろいろと手配して黒住教式で葬儀をつとめました。遺されたご夫人は、黒住教式で葬儀を行い、当初は立派に送っていただいたと喜んでいたので、叔父さんと何かあったのか、これから口出しされるのは嫌だから、仏式に変えろと言いました。所長は困り、せつかく霊主を設えお祀りしたので、何はともあれ大教殿に参つて相談するようにと説得しました。大教殿に初めてお参りした夫人は、その荘厳さ清々しさにびつくりし、主人が生きるときに、神道山に一緒に参りしておけばよかったと言漏らしたそうです。

「食わず嫌い」という言葉があります。知らず嫌いとは申しませんが、お道づれの子弟の中にも、本教のことを知らない方が随分と増えてきているのではと危惧します。機会あることに



教祖様、ご先祖様に手を合わせ、日々感謝の祈りを捧げましょう

教祖宗忠様は「神を拝むに時刻にかかわらず、朝日に向かう心にて拝むべし」と御教えになつています。ですから「朝日を拝む心」で拝むことのできる御神前をお祀りすることをお勧めしています。

また、本紙別掲(前ページ)に大教殿司教がお答えしていますように、敬神崇祖の道を進むことが大切です。八百萬神の柱となつて神昇られている皆様のご先祖様への祈りとともに、日々感謝の心で御神前にご挨拶

いただきたいものです。しかし、昨今の住宅事情により御神前のない方、またご実家やご本家に御神前は祀ってあるからという理由でご自宅に御神



前を祀られていない方もおられると思います。天照大御神様、教祖宗忠様、また八百萬神の柱の神であるご先祖様に、日々手を合わせ祈りを込めるとき、家庭は明るく陽気に満ちあふれ、広大なご神徳をいただいで開運することは間違いありません。この度、さまざまな理由によつて御神前をお祀りできない方へ、毎日手を合わせる「拝む対象」としての御三神(天照大御神・八百萬神・教祖宗忠様)の木札と、木札を立てかけることのできる台座を用意しました。(写真)

この木札は、正式な御神前に代わるものでは決してありませんが、次のような方へお勧めします。●所属の教会所または大教殿にお申し込み下さい。

- 自身の家庭へ
- 家族の「開運・家内安全」を祈つて。
- 赤ちゃんを授かった方へ
- その赤ちゃんの名前を記して「発育良好」を祈つて。
- 進学、進路が決まつて一人暮らしをする方へ
- その方の名前を記して「学徳成就・心身健固」を祈つて。
- 結婚された方へ
- その方の名前を記して「家内安全・心身健固等々」を祈つて。
- 両親から息子さん、娘さんへ
- 「家内安全、心身健固等々」を祈つて。
- 祖父母からお孫さんへ
- 「進学・就職祝い」また、「入学・合格達成祈念」を祈つて。
- 合格達成祈念を祈つて。
- 家族全員の一部屋
- 書斎、勉強部屋、居間等々へお祀りする。
- 不測の事態が起りかねない時代なればこそ、天照大御神様、教祖宗忠様、そして、ご先祖様にしっかりと守りいただきます。

《書籍案内》 いのちの教え

黒住宗忠に学ぶ自然体の生き方 山田敏雄著



◆東京大教会所責任総代が上梓 この度、株式会社テームスから『いのちの教えー黒住宗忠に学ぶ自然体の生き方』が新刊になりました。

筆者の山田敏雄氏は副教主様が所長を務める東京大教会所の責任総代で、東京都の公立中学校校長やスイス・チューリッヒの日本語学校校長を歴任された方です。また、本教機関誌「日新」には「黒住教と現代教育」と題して、教祖神の御教えを元とする心の教育の大事さを執筆下さっていました。

この度の出版に際し、出版元の株式会社テームス社長の伊藤寿男氏(政治・経済に関する記事が並ぶ月刊「テームス」の発行人)も、教祖神の御教えを一人でも多くの人に知ってもらいたいと、さまざまにご協力下さいました。

表紙に巻きつけられた帯には、副教主様の推薦文が掲載されています。

本文は、五章に分けて御教えの解説はもとより、奇跡的なおかげを受けたお道づれの手記なども掲載され、教祖神の御教えを初めて知る方にも大変読みやすくまとめられています。御教えを学び実践し、この二十一世紀をよりよく生きていく上で格好の書です。お道づれの方へもとより、幅広く世の方々に購読をお勧めします。

※山田敏雄氏の主な著書 『心の教育』(近代文藝社) 『神の心で生きる』(文芸春秋) 『黒住宗忠に学ぶ生き方』(たま出版) 購読を希望の方は、日新社まで。 ●頒価 一、六〇〇円 ●送料(一冊の場合)一六〇円 〒701-1212 岡山市尾上神道山黒住教日新社 ☎(〇八六)二八四二二三(直通) FAX(〇八六)二八四四七五六